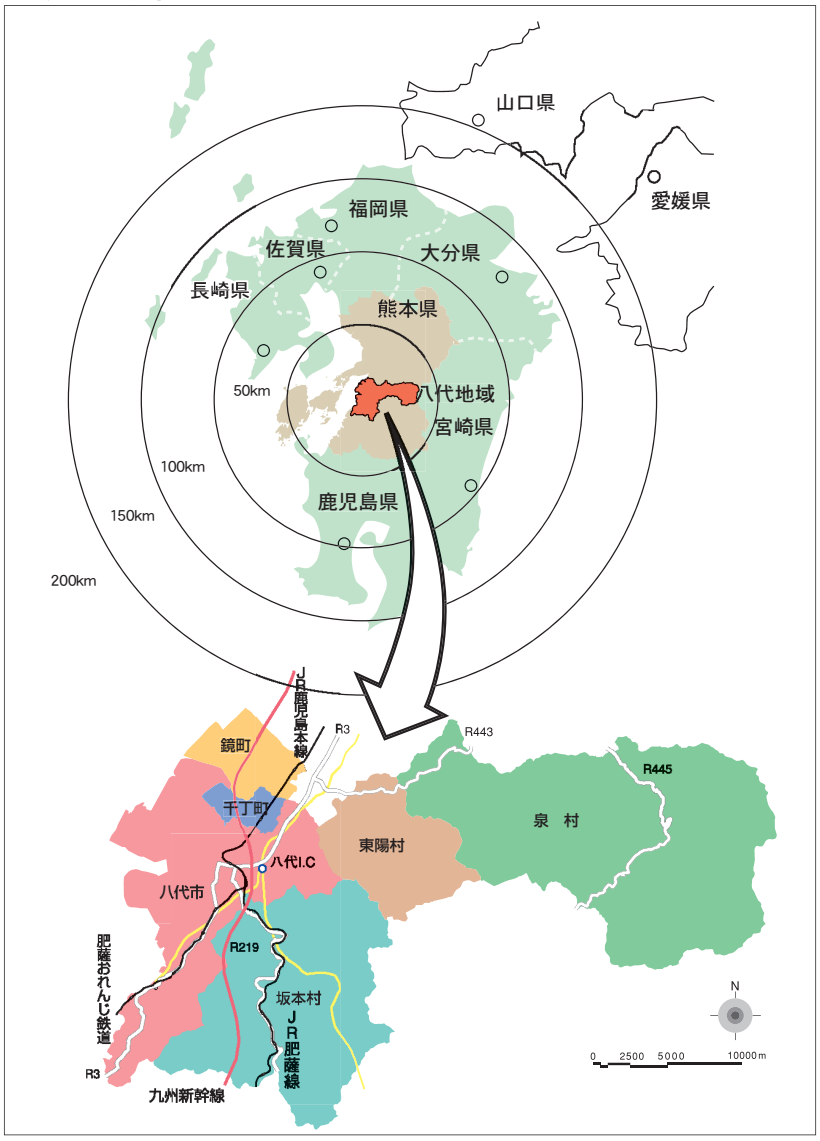
第２節　新市の概況

1 位置・地勢

- 八代地域は、熊本市の南約 40 ㎞に位置し、西は八代海に臨み、北は上益城郡・下益城郡、東は宮崎県東臼杵郡、南は球磨郡及び葦北郡に接しています。
- 宇城市松橋町から八代市日奈久地区に走る日奈久断層崖によって、西の八代平野と東の山地とに区分され、全面積の約 30％が平坦地、70％が山間地からなっています。
- 八代平野は、日本三急流の一つである球磨川や氷川等から流下した土砂が堆積してできた扇状地式三角州が基部となり、永年にわたる干拓事業により、形成された沖積平野となっています。山地の東部は、泉村の国見岳（1,738 m）を最高峰として、九州山地の脊梁地帯を形成し、西に低く、谷は狭くて深くなっています。

■新市の位置



2 気候

- 八代地域の年平均気温は、14.5℃～ 16.5℃と比較的温暖で、年間の降水量は 1,800 ㎜～ 2,000 ㎜です。
- 山間部の年平均気温は 14℃～ 15℃、年間の降水量は 2,000 ㎜以上です。

3 面積

- 八代地域は、東西 50 ㎞、南北 25 ㎞で、約 680.2 （68.019ha）の面積を有しています。
- 土地利用別では、森林が全体の約 7 割を占めています。次いで農用地が 11.6％となっており、なかでも八代平野の市町における農用地の占める割合が高くなっています。

■ 地　　積

		総面積	農用地	森　林	原野	水面・河川・水路	道　路	宅　地	その他
八代地域	面　積（ha）	68,019	7,888	50,178	6	2,231	2,322	2,688	2,706
	構成比（%）	100%	11.6%	73.8%	0.0%	3.3%	3.4%	4.0%	4.0%
市町村別データ									
八代市	面　積（ha）	14,680	4,399	4,609	5	1,179	982	1,969	1,537
	構成比（%）	100%	30.0%	31.4%	0.0%	8.0%	6.7%	13.4%	10.5%
坂本村	面　積（ha）	16,282	378	14,430	1	499	332	110	532
	構成比（%）	100%	2.3%	88.6%	0.0%	3.1%	2.0%	0.7%	3.3%
千丁町	面　積（ha）	1,118	782	-	-	61	118	146	11
	構成比（%）	100%	69.9%	-	-	5.5%	10.6%	13.1%	1.0%
鏡　町	面　積（ha）	2,824	1,764	-	-	266	304	361	129
	構成比（%）	100%	62.5%	-	-	9.4%	10.8%	12.8%	4.6%
東陽村	面　積（ha）	6,456	278	5,518	-	91	145	54	370
	構成比（%）	100%	4.3%	85.5%	-	1.4%	2.2%	0.8%	5.7%
泉　村	面　積（ha）	26,659	287	25,621	-	135	441	48	127
	構成比（%）	100%	1.1%	96.1%	-	0.5%	1.7%	0.2%	0.5%

H14「土地利用現況把握調査」（熊本県土地資源対策課）

4 人口・世帯

- 八代地域の人口は平成 12 年で 140,655 人であり、昭和 30 年から 14.6％減少し、昭和 55 年から一貫して減少傾向にあります。
- 八代地域の中心都市である八代市は、昭和 30 年の 99,487 人から昭和 60 年の 108,790 人まで 9.4％増加していますが、その後は横ばいから減少に転じ、平成 12 年には 106,141 人とピーク時の昭和 60 年から約 2.4％減少しています。
- 八代郡 5 町村の人口は昭和 30 年から一貫して減少傾向にあり、千丁町が 19.2％減とマイナス幅が比較的小さいものの、鏡町が 32.5％減、東陽村 51.8％減、泉村 63.8％減、坂本村 69.9％減と大きな減少となっています。
- 世帯数は八代地域全体で昭和 55 年から平成 12 年の間で 12.8％の増加となっています。なかでも八代市の 18.2％や千丁町の 15.7％の増加が目立っています。
- 1 世帯当たりの人口では昭和 55 年の 3.7 人から平成 12 年には 3.1 人と減少しており、今後も核家族化が進んでいくことが予測されます。

■人口の推移

（人）

	S 30年	S 40年	S 45年	S 50年	S 55年	S 60年	H 2年	H 7年	H 12年	H 12／S 30増減
八代地域	164,725	156,277	149,647	147,715	150,389	149,421	145,959	143,712	140,655	-14.6%
市町村別データ										
八代市	99,487	102,511	101,866	103,691	108,194	108,790	108,135	107,709	106,141	6.7%
坂本村	19,143	14,728	12,037	10,308	9,239	8,552	7,137	6,502	5,771	-69.9%
千丁町	8,654	7,905	7,463	7,268	7,268	7,102	7,093	7,024	6,989	-19.2%
鏡　町	23,953	20,479	19,443	18,755	18,578	18,300	17,345	16,604	16,174	-32.5%
東陽村	5,822	4,633	3,934	3,493	3,307	3,211	3,062	2,921	2,805	-51.8%
泉　村	7,666	6,021	4,904	4,200	3,803	3,466	3,187	2,952	2,775	-63.8%

国勢調査

■世帯数の推移

（世帯数）

	S 55年	人口/世帯	S 60年	人口/世帯	H 2年	人口/世帯	H 7年	人口/世帯	H 12年	人口/世帯	H 12／S 55増減
八代地域	40,818	3.7	42,188	3.5	42,975	3.4	44,956	3.2	46,056	3.1	12.8%
市町村別データ											
八代市	30,308	3.6	31,557	3.4	32,800	3.3	34,811	3.1	35,824	3.0	18.2%
坂本村	2,438	3.8	2,530	3.4	2,155	3.3	2,122	3.1	2,050	2.8	-15.9%
千丁町	1,615	4.5	1,636	4.3	1,704	4.2	1,762	4.0	1,868	3.7	15.7%
鏡　町	4,656	4.0	4,697	3.9	4,605	3.8	4,595	3.6	4,638	3.5	-0.4%
東陽村	782	4.2	787	4.1	779	3.9	772	3.8	787	3.6	0.6%
泉　村	1,019	3.4	981	3.5	932	3.4	894	3.3	889	3.1	-12.8%

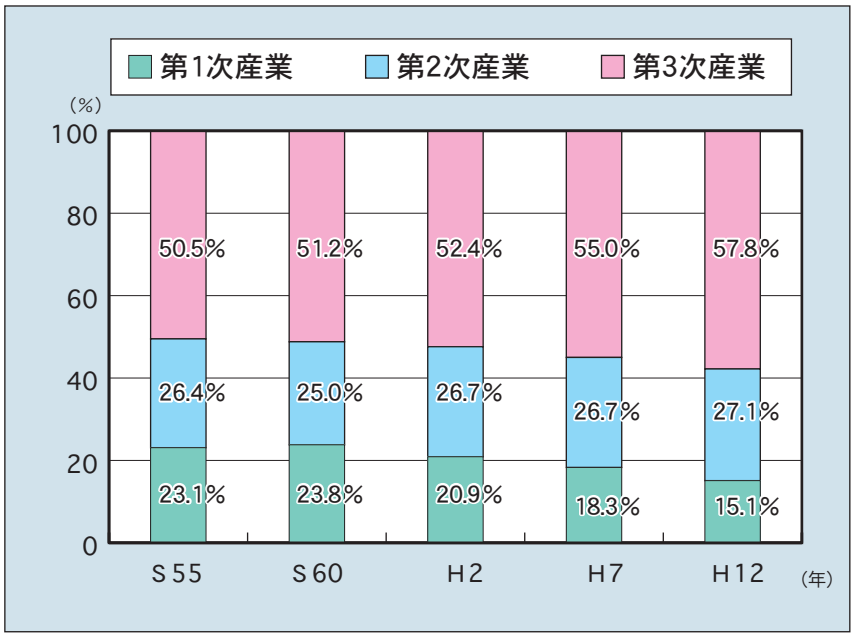
国勢調査

5 就業人口の推移

● 産業別就業人口の構成比の変化を昭和 55 年と平成 12 年で比較してみると、第 1 次産業の構成比が 23.1％から 15.1％に 8.0 ポイント低下し、第 2 次産業が 26.4％から 27.1％とほぼ横ばい、第 3 次産業が 50.5％から 57.8％に 7.3 ポイント増加となっており、第 1 次産業が減少する一方で第 3 次産業が増加していることが顕著となっています。

■産業別就業人口の推移

（人、％）

		S 55年	S 60年	H 2年	H 7年	H 12年
第1次産業	就業者	16,693	16,897	14,739	12,888	10,225
	構成比	23.1%	23.8%	20.9%	18.3%	15.1%
第2次産業	就業者	19,099	17,765	18,807	18,836	18,282
	構成比	26.4%	25.0%	26.7%	26.7%	27.1%
第3次産業	就業者	36,483	36,295	36,965	38,735	38,993
	構成比	50.5%	51.2%	52.4%	55.0%	57.8%
計		72,275	70,957	70,511	70,459	67,500

（国勢調査）